

イエス

知っておきたいキリスト教のことば (14)

聖書に出てくる人物の中には、名前自体が深い意味を持つ人がいます。たとえばエバには「命」、ノアには「慰め」、イサクには「彼は笑う」といった意味があります。わたしたちも子どもたちに名前をつける時には、とても悩みます。どの漢字を使うか、どう呼ばれて欲しいか、いろいろなことを考えることでしょう。

「イエス」という名前は、当時のユダヤ地方ではごくありふれたものだったようです。旧約聖書には「ヨシュア」という指導者が登場しますが、「イエス」という名は「ヨシュア」というヘブライ語名を短縮したギリシア語名です。その「ヨシュア」という名前には、「神は救い」という意味があります。そしてヨシュアの短縮形である「イエス」も同様に、「神は救い」という意味を持つのです。



さて、ここからが大事なことです。「イエス」という名は、マリアとヨセフがつけた名前ではありません。マタイによる福音書 1 章 21 節には、主の天使がヨセフに、「マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである」と伝えた出来事が書かれています。つまり「イエス」という名は、神さまの意志によってつけられた名前なのです。

では「神は救い」であるイエス様を、わたしたちはどう受け入れればよいのでしょうか。神さまの思いがこの名前に込められているのならば、神の救いはその幼子の誕生と共にわたしたちに与えられているのです。

イエス様のみ名によってわたしたちが祈る時、わたしたちは神さまが救いのみ手をわたしたち一人一人に差し伸べてくださっていることを覚えます。その喜びをかみしめ、今日もその名を唱えましょう。「イエス様〜」。

今回は「異言 (いげん)」です。お楽しみに。